

既刊のご案内

隠者の小道

〈この〉衰亡に投じる一つの波紋

[刊行日]: 2011年11月15日

[著者名]: 倉石 清志

[ジャンル]: 〈哲学小説 / 対話編〉B 6 ハードカバー (上製) 303頁

[内容]: 3世紀ローマ帝国を舞台にした隠者アルカディウスの哲学的対話物語。

[価格]: 2800円 (税別)

[ISBN]: ISBN978-4-905520-00-9 C0010



VIA AD HOMINEM SOLITARIUM

古代ローマを舞台にした対話小説！
ローマ兵士から隠者・哲学者となった
アルカディウスのもとに色々な人が訪れて
様々なテーマを話し合う対話作品。

[編集長から一言]

倉石清志の処女作『隠者の小道』。

本作は著者が二十九歳の時に書き始められた哲学対話篇である。

著者の初々しい時代の思想が堪能できる貴重な作品である。

古代ローマ帝国の隠者アルカディウスの人格を通じて語られる
心に深く響く幸福の哲学書。

【著者紹介】

倉石 清志 (Seiji Kuraishi)

1975年福岡県生まれ

長崎純心大学大学院博士後期課程修了。

博士 (学術・文学)。

Opus Majus (オプス マイウス出版)

TEL (担当直通) 090-7659-7278

FAX 0166-30-1415

HP <http://opusmajus.com>

西暦289年のローマ帝国。威光の陰りが顕著になった時代。人は老いてその活力が失われるように、ローマの大懐と力能は今や灰燼に帰そうとしていた。われわれの生きた世紀は終焉へと流転する。

イタリア半島の山。偶然と必然の記憶。〈隠者の小道〉。それは山に通じる岩山の山道。山頂に住まう一人の隠者。その名はフロンティヌス・アルカディウス。

秩序がおりなす邂逅。彼のもと、縁ありて訪ね人きたる。〈対話〉による契機。神々の天空に近き山巔における哲学の語り。ときとして一致し、ときとして対峙する。さあ、探究の道へ。

| 番線印 | ご注文数 | 発行: Opus Majus |
|-----|------|--|
| | | 隠者の小道 倉石 清志 著 ISBN978-4-905520-00-9 C0010 2800円 (税別) B 6 ハードカバー (上製) 303頁 冊 |

【オプス マイウス FAX 0166-30-1415】※(株)JRC 経由で、すべての取次への出荷が可能です。